

俱学俱進 求道の人

小池 與一先生

小池 與一（こいけ よいち）先生 略歴

1910年（明治43）10月21日－
1990年（平成2）3月11日

長野県上水内郡柵村（現：長野市戸隠）出身。
生家は貧しい農家で、自然環境の大変厳しい中で育った。

1929年（昭和4） 長野師範学校卒業
1929年（昭和4） 埴科郡五加尋常高等小学校訓導
1931年（昭和6） 上水内郡若槻尋常高等小学校訓導
1934年（昭和9） 上田市尋常高等小学校北校訓導
1939年（昭和14） 上水内郡鳥居尋常高等小学校訓導
1945年（昭和20） 上高井郡須坂国民学校訓導
1946年（昭和21） 上水内郡神郷小学校訓導
1947年（昭和22） 上水内郡神郷小学校校長
1948年（昭和23） 長野県視学
1949年（昭和24） 県教委教学指導課指導主事
1950年（昭和25） 上水内郡若槻中学校校長
1954年（昭和29） 上田市第一中学校校長
1959年（昭和34） 長野市南部中学校校長
1963年（昭和38） 上水内郡豊野中学校校長
1970年（昭和45） 退職
1990年（平成2） 逝去 享年79歳

1969年（昭和44） 文部大臣表彰を受ける
1970年（昭和45） 長野県教育委員会表彰を受ける
1984年（昭和59） 勲五等雙光旭日章を受ける
1990年（平成2） 従五位を受ける

上水内郡教育会長・校長会長（5年間）
県中学校校長会長（2年間）



西田幾多郎・芭蕉・良寛そして禅に学ぶ

小池先生は、西田幾多郎、松尾芭蕉、良寛を心の拠り所にされている。この先人たちは、東洋や日本の心ともいふべき「無心」「無欲」に徹しながら生き抜いた人々であり、その底流には厳しい禅の修行があった。

小池先生は、三人の精神や生き方に触れることで、ご自身の教師道を磨かれていた。

小池與一先生の教育実践

小池先生は、「東洋的無」の思想をバックボーンとし、研鑽・修行を基にして、教育現場である「学校」や「教師」のあり方に崇高な理念をもたれていた。

また、次世代を担う子どもたちに対し大きな期待をもたれ、校長講話や日常場面で温かく、そして時には厳しく語られ、絶えず子ども自身の向上と自己実現に向けての自立を促された。

小池與一先生の導き

ご退職後、請われて上水内哲学会や長野市哲学同好会で指導をしてこられた。小池先生の指導は、会員の教育理念に揺るぎない自信を与え、明日への活力となっていた。

長野良寛会では、研修会で何回も講話され、「私利私欲に走らず、誠実に生きよ」「無我になってもものを見よ」「童心を忘れるな」といったことを示唆して下さった。